

学力調査等の状況

国語:平均正答率は全国より0.7%低く、東京都より3%低かった。特に【知識及び技能】の学年別漢字配当表に示されている感じを分の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題と【話すこと・聞くこと】の目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題の正答率が低い。また、登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える問題(選択式)も正答率が低い。

算数:平均正答率は全国平均を2.6%上回り、東京都より2%低かった。【知識及び技能】については、問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率が低い。しかし、二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができる問題は正答率が高かった。【思考・判断・表現】は比較的正答率が高かった。問題形式については、記述式、短答式の問題は比較的好くできていたものの選択式は誤答が多かった。領域については、「図形」「データの活用」の問題が正答率が高かった。しかし、「変化と関係」の正答率が低かった。全体的にみると知識・技能面に関する問題の正答率が低かった。

見えてきた課題

国語:読むことの登場人物の相互関係や心情。人物像を具体的に想像する。物語の全体像を具体的に把握したり表現の効果など物語分の構造についての理解が乏しい。読む能力が低く、叙述に即して登場人物の心情や文章の内容を的確に押さえて読むことも苦手としている。また説明文などの資料を読み取り、問題の答えを導き、その理由を考え、表現する力が低い。

算数:図形の知識及び技能の基本的な内容はできている。しかし、数量の基礎的な計算問題ができていない。また、「思考・判断・表現」の文章問題、発展問題、応用問題など、既習事項を使って考え、問題を解くことも苦手である。「データの活用」に関する問題は、できているか、基本的な知識の習得ができていないので、継続的に学習していく必要がある。

授業をデザインする8つの取組について

見通しをもたせる導入	・単元や一単位時間のめあてを見通した導入を工夫し、主体的に取り組めるようにする。
価値ある対話の共有	・友達と話し合ったり、意見を聞いたりする場を設定することで、様々な見方ができるようにする。また、課題解決に向けて、児童に多面的・多角的に考えさせる。
ICT機器の活用	・ICT機器を活用し、児童の学ぶ意欲を高めると共に振り返りの充実を図る。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	- 自分の考えを伝えたり、考えを交流したりする機会を多く設ける。 - 目的に応じた文章を書く力の向上を図るために、具体的な書き方の指導をする。また、日常的に習った漢字を使うよう指導する。 - 朝読書を行い、学校図書館などを有効に活用し、読書の質を高める。	- スピーチなどを通して、身近なことや経験したことを相手に伝えたり、聞いたりする機会を設定する。 - はじめ、中、おわりの構成を意識させ、順序立てて文を書けるようにする。また、日常的に習った漢字を使うように指導する。 - 学習した内容に関連した読み物を紹介したり、読み聞かせを通して、読み物に触れる機会を多く設定する。	- スピーチなどを通して、目的を意識して相手に伝えたり、聞いたりする機会を設定する。 - 自分の考えを書くときには、根拠を明らかにし、自分の意見を相手に分かりやすく伝える文を書けるようにしていく。また、日常的に習った漢字を使うように指導する。 - 学習した内容に関連した読み物を紹介し、様々なジャンルの読み物に触れる機会を設ける。	- ディベートなど、自分の考えの根拠を明らかにして話したり、聞いたりする機会を設ける。 - 筋道の通った文章になるよう、事実と感想、意見を区別して書いたり、引用や図表を活用して文が書けるようにしていく。また、日常的に習った漢字を使うように指導する。 - 場面の様子、情景や心情を叙述に即して読む力を育成するために、朝読書、学校図書館などを利用し、読書の質を高める。
社会科	- 複数の視点に着目して問いを設け、比較や分類、関連付け等の思考を経る、問題解決的な学習を行う。 - 資料から問いに対する答えを見つける学習を通して、資料を読み取る力を育てる。 - 話し合いで考えを共有し、深める。		- 知識を暗記させるだけではなく、カルタやパズル、クイズなどのゲーム性を持たせて行うことで、知識を意欲的かつ、印象深く覚えさせる。 - 友達と話し合ったり、意見を聞いたりする場を設定することで、様々な見方ができるようにする。 - 学習したことや調べたことなどを要約し、まとめる活動をする。	- 表やグラフ、写真などの資料を活用し、様々な要因に関連付けて、疑問を持たせたり、推測させたりしながら、問題を解決していく。 - 友達と話し合ったり、意見を聞いたりする場を設定することで、様々な見方ができるようにする。 - 学習したことや調べたことなどを要約し、まとめる活動をする。
算数科	- 習熟度別少人数指導により、個に応じた指導を行い、児童一人一人の学習意欲や学力の向上を図る。 - 問題の自力解決ができるように、基礎的・基本的な知識・技能についての学習を繰り返す。 - 問題場面を絵や図、数直線、表などを用いて正しく立式させ、友達などの意見を通して様々な考えを知り、説明できる「分かる学力」の向上を図る。 - クラウド型学習支援ソフトを活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。	- たし算ひき算の場面において絵や文から読み取り、具体物や絵、図などを用いて考える活動を行う。 - 繰り上がり繰り下がりのある筆算やかけ算九九を繰り返し練習し、身に付けられるようにする。 - 身近な生活場面から、絵や図を用いて、数量を読み取り立式する活動を行う。 - クラウド型学習支援ソフトを学習内容の習熟に活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。	- 習熟度別少人数指導で個に応じた指導を行い、児童一人一人の学習意欲や学力の向上を図る。 - 問題場面を絵や図、数直線、表などで表し、正しく立式させる。また、ペアなどで自分の考えを説明し、友達の発言などから様々な考えを知り、説明できる力を伸ばせるようにする。多様な文章問題などを解き、知識・技能を活用する場面を理解させる。 - クラウド型学習支援ソフトを学習内容の習熟に活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。	- 習熟度別少人数指導で個に応じた指導を行い、児童一人一人の学習意欲や学力の向上を図る。 - 問題場面を絵や図、数直線、表などで表し、正しく立式させる。また、ペアなどで自分の考えを説明し、友達の発言などから様々な考えを知り、説明できる力を伸ばせるようにする。多様な文章問題などを解き、知識・技能を活用する場面を理解させる。 - クラウド型学習支援ソフトを学習内容の習熟に活用し、基本的な知識・技能の定着を図る。
理科	- 観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けさせ、自然の事物・現象についての理解を図る。 - 見通しをもって観察・実験などを行い、過程をまとめることで、問題解決の力や思考力・判断力・表現力等を養う。 - 理科を学ぶ意義や有用性の実感し、問題意識をもって主体的に問題解決しようとする態度を養う。	- 身近な自然を利用して遊んだり、動植物を育てたりする学習を通して - 自然の変化や面白さに気付かせる。 - 遊びの方法や、道具を工夫させたり、動植物の育つ環境に関心をもたせる。 - 生き物への親しみをもち、大切に育てる。	- ICT機器を活用して、器具や機器の使い方や、実験・観察の結果を共有し、実感を伴った理解を図る。 - どの単元でも「問題を見出す」「仮説」「解決方法を発想する」「実験・観察」「結論付け」の過程で学習を進め、問題解決の見通しをもたせる。 - 対話の機会を設け、自然の事物・現象への問題意識や日常生活との関わりを共有させる。	- ICT機器を活用して、器具や機器の使い方や、実験・観察の結果を共有し、実感を伴った理解を図る。 - どの単元でも「問題を見出す」「仮説」「解決方法を発想する」「実験・観察」「結論付け」の過程で学習を進め、問題解決の見通しをもたせる。 - 対話の機会を設け、自然の事物・現象への問題意識や日常生活との関わりを共有させる。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	・異学年のグループ活動や身近な動植物を育てる活動、校外学習を多く取り入れ、豊かな体験活動を行う。 ・豊かな体験活動を通して気付いたことや考えたことを、表現できるようにする。	・学年を超えての交流を通して、豊かな人間関係の形成を図る態度を養う。また、地域の生活と自然との関わりを調べようとする態度を育てる。 ・ICTや観察カードなど記録のツール、個人や少人数のグループなどの発表形態を体験活動によって変える工夫を行う。また、新たな考えが生まれたり、気付きが関連付けられ、気付きの質が高まるように交流の場の設定を行う。		
音楽科	・歌唱や器楽の基本的技能を向上させるために、各学年や個の実態に応じた具体的な指導を行う。 ・歌唱や器楽アンサンブル、音楽づくりで、グループ活動を取り入れ、自分たちで創意工夫をし、ICTを取り入れながら協働的探究ができる場面をつくる。 ・鑑賞活動と表現活動との関連を図り、指導する。	・拍打ちの活動を適宜取り入れ、簡単なリズムや音の高さの感覚を育てていくようにする。 ・教師や他の児童の範唱や範奏を聴いたり、グループ活動をしたりする中で試行錯誤する場や時間をつくることにより、試そうという態度を育てていく。 ・身体活動を適宜取り入れながら、何に気をつけて聴くのかを明確にし、それを表現活動に生かすなど相互に関連させていく。	・曲の感じを感じ取り、どのように演奏したいのか意図をもったり、ねらいに沿ったふり返りを行ったりして基礎的技能的の向上を目指す。 ・どのような音や音楽にするか、思いを持って活動ができるように、児童同士の音を聴き合いその良さを見つけ、自己の表現に生かしていけるようにする。 ・鑑賞活動で指で旋律をなぞったり、拍打ちをして表現活動を取り入れ集中して聴くようにする。	・学習カードを使用し、学習の見通しや課題を明確にし、達成意欲を持たせる工夫を行う。 ・グループ活動からお互いに教え合う場面をつくり、対話的な活動の場をつくる。 ・表現活動で、オーケストラや合唱など他の形態の楽器や歌声の響きを聴いてイメージをもたせて表現の工夫に生かす。
図画工作科	・各学年や個の実態に応じ、理解や学びを深める指導を行い、知識・技能を高める。 ・題材や材料を工夫し、豊かな発想力や構想力を高める指導を行う。鑑賞や表現で良さを見つけ合い、多様な価値観を認めあう。 ・つくりだす喜びをあじわい、主体的に取り組む態度を引き出す指導を行う。	・道具や材料の扱い、作品づくりを通して低学年で習得する知識や技能を身に付けさせる。繰り返して道具を使用することで技能を身に付ける機会を増やす。 ・さまざまな材料や素材とふれあうことで、自分の表したいことを見つけさせる。鑑賞で友達の作品の良さを認め合う指導を行う。 ・ICTや発問の工夫で、主体的に取り組む態度を育てる。	・道具の材料の扱い方をICTや教科書等を活用し、作品づくりを通して知識や技能を身に付けさせる。 ・新しい材料や素材とふれあい、見方考え方を見つけるよう指導する。新しい道具を使用するだけでなく、低学年で使った道具や材料も繰り返し使用できるようにする。 ・ICTや発問、ワークシートの工夫で意欲を高め、主体的に取り組む態度を育てる。	・道具の使い方や材料の扱い方を応用できるよう知識の定着を図り、知識や技能を深めさせる。 ・材料や素材の扱い方を工夫し、自分の見方考え方を深められるよう指導する。作品の完成を意識して、計画から自分で考えて進められるようにする。 ・ICTや発問、ワークシートの工夫で意欲を深め、主体的に取り組む態度を育てる。
家庭科	・地域・保護者の協力を得て、用具の安全な使い方や技能を習得させる。 ・効率よく活動を行うために、児童自身に計画を立てさせ、見通しをもたせて取り組ませる。 ・学んだことを日常生活に生かすことで、心身共に豊かな生活が送れることに気付かせ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の向上を図る。			・地域・保護者の協力を得て、用具の安全な使い方や技能を習得させる。 ・効率よく活動を行うために、児童自身に計画を立てさせ、見通しをもたせて取り組ませる。 ・学んだことを日常生活に生かすことで、心身共に豊かな生活が送れることに気付かせ、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力の向上を図る。
体育科	・自分の力に合っためあてをもち、活動内容を工夫させることで意欲的に運動に取り組ませる。 ・仲間と協力して運動することで、運動の楽しさを味わわせ、思考力・判断力の向上を図る。 ・協力や公正などの態度を育てるために、規則やルールを自分たちで考えとともに、授業におけるルールの徹底を図る。	・「あの動きを身に付けたい」という自分の目標とする姿を明確にもたせるために、教員の例示やICTを活用した手本となる動きを見せることで、何事にもチャレンジする気持ちを育てるよう働きかける。 ・運動が苦手な児童も進んで運動に取り組めるような指導や学習カードの工夫を行い、「できた」という満足感が得られるように見通しがもてる運動を行う。 ・児童が見通しをもてるようにオリエンテーションを工夫しゴールイメージをもてるようにする。	・どの領域でも学習カードを使用し、自分の課題を選び、解決するための活動意欲が持続するような工夫をする。 ・練習の仕方や作戦などペアやグループで対話できる時間を確保し、取り組みに対して適切に価値付けをする。児童の実態に応じてゲームの規則を工夫することで、一人一人の運動の機会を保障していく。 ・児童が見通しをもてるようにオリエンテーションを工夫しゴールイメージをもてるようにする。	・導入で、主運動につながる補助運動を取り入れる。毎時間、補助運動を取り入れることで児童に獲得させたい動きが自然と身に付くように仕向ける。 ・ゲームをする際、練習の仕方や作戦などグループで話し合う時間を確保し、取り組みに対して価値付けをする。児童の実態に応じて、ルールを工夫したりすることで意欲を向上させる。 ・児童が見通しをもてるようにオリエンテーションを工夫しゴールイメージをもてるようにする。
外国語科	・楽しく学び、ALTや友達と英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図る。 ・活動を通して、言語や文化に対する理解を深め、自分の考えや気持ちなどを文発話で伝え合うことができるようにする。書く力も中学校に向けて基礎的な力を養う。			・外国語を通して、児童がやり取りをする場を多く設定し、肯定的なリアクションを促し、明るく楽しく、互いに認め合える集団の形成を図る。 ・スピーチの際、クロムブックでスライドを作成し、「伝えたい」「聞きたい」という意欲を高めていく。また、同時にワークシートを活用してスピーチ原稿を作成し、書く能力の向上も図る。

⑪-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	・学校2020レガシーとして、環境・福祉・国際理解を通して、他者と協働して課題を解決する体験的及び探究的な学習の充実を図り、共に生きる力の育成と自分の生き方を考える態度を育てる。 ・思考ツールやタブレット端末を効果的に活用し、言語による分析やまとめたり表現したりするなどの学習活動を展開し、実社会・実生活で活用できる能力を		・人や地域と積極的に関わる体験的・探究的な学習を行い、情報・収集やまとめ・表現での活動時にICTを効果的に活用することで、思考力・判断力・表現力を高め、学校や実社会においても課題解決する資質や能力を育てる。 ・学校・家庭・地域における役割や働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味関心の幅の拡充していけるようにする。	・人や地域と積極的に関わる体験的・探究的な学習を行い、情報・収集、まとめ・表現での活動時に、目的に即した方法を選択しながらICTを効果的に活用することで、思考力・判断力・表現力を高め、学校や実社会においても課題解決に応用できる能力を高められるようにする。 ・学校・家庭・地域における自らの役割や働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味関心の幅の拡充していけるようにする。
特別の教科 道徳	・教育活動全体を通して、人権に関する判断力、社会性、生命尊重、人間尊重の精神を育み、児童の道徳的心情を豊かにするとともに、道徳的な実践意欲と態度を育てる。 ・話し合い活動やタブレット端末を効果的に活用し、多様な考えがあることを知り、お互いを認め合えるような指導をする。 ・道徳地区公開講座を行い、保護者や地域との連携を深める。	・道徳の授業の中で、話し合い活動や役割演技を取り入れ、自分の考えをもち、それを伝える場面を設けることができるようにする。 ・授業の中で、自分の生活のことを振り返ったり、今後の生活のことを考えたりする時間を十分に確保することができるようにする。	・道徳の授業の中で、話し合い活動を行う際に、自分の考えと相手の考えの違いに気付いたり、互いの意見の良さを見つれたりする中で、お互いを認め合うことができるようにする。 ・授業の終末では、自己を振り返る時間を十分に確保し、考えることを通して、道徳的な実践意欲と態度を育てることができるようにする。	・道徳の授業の中で、話し合い活動を通して、他者の多様な考えを知り、異なる考えの中から、その良さや自分の考えの良さを見つめる中で、互いの考えを認め合うことができるようにする。 ・授業の終末では、自己の生き方を振り返り、今後の生き方について考えることを通して、道徳的な実践意欲と態度を育てることができるようにする。
特別活動	・学級・学年の活動、委員会・クラブ活動、集会活動、縦割り班などの自主的・実践的な集団活動を通して、思いやりの心や協力する態度などを育み、人間関係をよりよく形成する力を伸ばし、自己の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	・どのようにになりたいかについて話し合い、希望や目標をもって生活できるようにする。そして、人との豊かな関わりを通して自ら学び、自分に自信をもつことができるようにする。また、たてわり活動を通して、上学年への親しみやあこがれを抱き、「人と関わることが楽しい」と感じられるようにする。	・自分の役割を果たすことの意味や大切さについて考え、学級の一員として当番、係活動を責任もって行えるようにする。また、たてわり活動を通して、上学年への親しみやあこがれを抱き、自分もこうなりたいと目標をもてるようにする。さらに、課題解決の必要性を共有すると共に話し合いの計画を立て、集団の課題について考えながら、解決に向けて自分の考えがもてるようにする。	・下級生の見本となるよう高学年としての自覚を意識させ、学校行事やクラブ、委員会活動、たてわり活動へのより積極的な参加を促す。リーダーとして自分の役割を果たし、その姿を価値付けすることで、「満足感」や「充実感」、「集団への所属感」を得られるようにする。 - また、様々な行事や活動への取り組みでの児童相互の関わり合いの経験を通し、お互いを理解し、相手の立場や心情を考えて思いやりの心をもち、協力していけるようにする。
外国語活動	・これまでの校内研究の成果を生かし、楽しく学び、ALTや友達と英語を使って進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を図る。 ・活動を通して、言語や文化に対する理解を深め、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な素地や力を養う。	・スライドを活用したクイズ等、ゲーム性のある活動を多く取り入れることで、児童にとって外国語活動が楽しいと感じる時間にしていく。 ・友達同士、英語を使った簡単なやり取りの場を設定し、英語をたくさん発し、外国語でのコミュニケーションを説教的にとらえずに態度を育てる。	・スライドを活用したクイズ等、ゲーム性のある活動を多く取り入れることで、児童にとって外国語活動が楽しいと感じる時間にしていく。 ・友達同士、英語を使った簡単なやり取りの場を設定していく。その際、やり取りに対する「誉め言葉」や「肯定的なリアクション」を促すことで、互いに認め合う集団の形成を図る。	